

# 人間ドック健診施設機能評価 Ver.4 総合評価

施設名： 社会医療法人 生長会 府中クリニック

## 受審施設の概要

府中クリニックは、大阪府和泉市にあり、2012年に健診専門施設として開設し、各種健診を実施している。

アクセスはJR阪和和泉府中駅から徒歩5分でイオン和泉府中店の1階に位置している。また、道路を挟んで母体である府中病院が隣接し、よく連携がとられており、包括的な健康管理ができる仕組みが構築されている。

年間の受診者数は、一日ドック約6,200名、その他の健診が約14,000名実施している。本機能評価は2014年に初回の認定を受け、今回が2回目の更新審査である。

## 第1領域 理念達成に向けた組織運営

法人として理念と基本方針が明文化され、院内掲示もされている。個人情報保護に関しては、個人情報保護法方針が明文化されているものの、パンフレットやホームページへの掲載がなく検討されたい。就業規則等各種規程は、法人で体系的に一括管理されている。職業倫理については、就業規則内で明文化され、違反行為に関する相談窓口は事務長であり、周知方法も明確である。

中期経営計画・年度事業計画・予算書等は作成され健診部門の収支や目標を明確にしたうえで法人ヒアリングを経て承認されるなど組織的に検討がなされている。周知方法も適切である。

健診部門の職員配置体制については、病院兼務職員も多いが、府中病院との連携がよく、チーム医療が実践されている。健診専任の医師は人間ドック健診専門医を取得している。教育体制については、年間計画に基づき充実した形で構築されており、職種別はもとよりスキル別にも実施されており、質の高い健診サービスの提供に繋がっており高く評価したい。

医療安全管理体制については、委員会が毎月開催され、マニュアルも整備されている。インシデントの事例は報告後に検討され、対策が講じられている。感染対策委員会を中心にマニュアルに準じた予防策を実施するなど、感染管理や安全衛生管理の体制は適切である。またバックヤードの随所に消毒液が配置され感染症対策の意識は高い。

情報管理体制は、サーバー室への入退室管理やパスワードによる健診システムへのアクセス制限等適切である。

高齢者や障害者等、配慮が必要な受診者への対応については、全館がバリアフリー化され、車いすにも対応している。更衣などは別室にて対応するなど受け入れの実績もある。

外国人受診者については、院内で受け入れ条件が定められ、日本語が分からない方は通訳同行にて対応している。

## 第2領域 受診者中心の良質な健診の実践

予約・受付の業務は、担当者が契約マニュアルの手順に従い、毎年適切に契約締結・更新している。会計マニュアルに従い収受業務はダブルチェックがなされるなど、適切に会計処理が行われている。責任者なども明確であり記録も含めて適切である。また月締めにて会計報告が適切になされている。人間ドック学会が提示する基本検査項目は全て実施されている。

レディースフロアを設け、婦人科については木曜日以外は女性医師が対応し、マンモグラフィや乳房超音波検査も女性技師が対応している。受診者の待合フロアを取り囲むように検査室が設けられており、検査の空き状況を見てエスコートスタッフが案内する仕組みになっている。待合フロアは明るく清潔で、生け花や観葉植物も配置され落ち着いた受診環境が整備されている。

受診に関する事前の情報提供は、ホームページや送付される書類によって十分に行われている。受診前後の種々の問い合わせの対応方法もマニュアルとしてまとめられ、コールセンターにて対応している。受診者情報の確認と共有はイントラネットを活用して行われている。受診者の急変時対応マニュアルも適宜改訂され、定期的に急変時対応のシミュレーションを行っている。急変時の対応としてはコール体制（Green Call）があり、隣接する府中病院とも連携をとっている。

精度管理体制は内部精度管理と外部精度管理を適切に実施し、報告会にも積極的に参加し、常に適正な検査結果が得られるように努力されている。日本医師会や日本臨床検査技師会の精度管理においては満点に近い成績を維持している。胸部X線検査・心電図検査は日本総合健診医学会、腹部超音波検査・胃X線検査は全国労働衛生団体連合会の画像精度管理調査事業に参加し、結果を運営会議で報告している。日常点検は始業時に担当者が行い、定期的な保守点検は業者が行っている。検査結果判定は人間ドック学会の判定マニュアルに従って判定し、検査ごとの適切な業務マニュアルも確認した。

二重読影・比較読影体制は確立され、クリニックの常勤・非常勤医に加え必要に応じて、府中病院の専門医師によるチェックも行える体制となっている。2か月に一度、勉強会を開き有所見症例の定期的な検討会を行っている。読影専門医から検査担当者に適時指導を行い、フィードバックもなされている。

医療面接は医師が行う体制であるが、予め受診者が記入した問診票を看護師が確認し情報共有もされている。

医師による結果説明は、結果説明担当医が画像も提示し行っている。所要時間は10～15分で、10時半から14時までに行われている。結果説明率は98.1%とほぼ全員に実施されており評価できる。健診当日の医師の診察説明と、後日郵送されてくる最終結果報告書との整合性を図るため、診察時の説明内容も記録されている。

保健指導は、結果説明終了後に人間ドックアドバイザーの認定を受けた保健師、管理栄養士が担当している。指導対象者の明確な選定基準・指導マニュアルも作成されており、2018年度より指導体制は整備された。生活習慣・健診結果から問題点・改善点を指摘し、食事・運動・飲酒・喫煙を含めた生活習慣改善を促している。特定保健指導では、具体的な目標を本人主体で決定し、面接や手紙での支援を行い、6か月間の取り組みをサポートしている。特保対象者以外の受診者にも、医師が必要と判断する方には、健康相談を一人15分程度行う体制であり、今後の継続的な取り組みと更なる体制強化が期待される。指導スタッフは自己学習・OJT・外部研修を組み合わせた教育プログラムを受け、定期的にスキル評価を行っており、保健指導体制強化に向け意欲を感じた。特定保健指導の実施率は、最近では5割を超えている。一方、特定保健指導以

外の健康相談実施率は現時点ではまだ1割程度と低率であり、今後の継続的な取り組みに期待したい。

### **第3領域 継続的な質改善の取り組み**

受診者の要望を把握する体制としては、毎日アンケートを行っている。ご意見箱はロッカー室にはないが、ゆったりとしたカフェコーナーがあり記入しやすい。回収率は最近では67.2%とのことであった。集計結果は顧客サービス委員会から毎月運営会議にて報告されている。改善事例として、オプション検査の説明スライドの放映、判り易いパンフレットへの改訂、新規オプション項目の作成、ロッカー室などの姿見の設置など行われている。

フォローアップについては、検査結果表に希望者には紹介状を同封し、他の医療機関を紹介できる体制が構築されている。健診後4か月を経過しても受診確認が取れない場合は、受診勧奨状を発送する仕組みがある。要精検率はおおむね10%以下と適切である。各検査の精検受診率は平均で約66%である。更なる実施率向上に向け、特に悪性疾患疑いの受診者に対する再受診勧奨の強化等については早急に検討されたい。追跡検査のフォローアップについては、今後も継続的な取り組みをお願いしたい。

健診結果の分析は年報委員会にて作成、検討がなされている。外部の委員を含めた倫理委員会も適宜開かれている。学会発表は日本人間ドック学会では2013年度より、日本総合健診医学会では2016年度より毎年発表がされ、また日本女性医学会学術集会でも発表がある。

受診者に向けた有用な情報提供として、年間数回行われる講演活動（大学講座・市民講座）を中心に積極的な情報提供を実施している。健康経営に向けた取り組みとしては、健診データを事業所毎にまとめた評価書を作成するしくみがあり、希望する事業所に提供している。

業務改善の仕組みは構築されており、QC（品質管理）活動も含め目標を定めて業務改善を積極的に取り組んでいる。

前回の本機能評価の指摘事項のうち、大半は改善されているが、フォローアップ体制、保健指導の実施率向上などについては引き続きの取り組みを期待する。

### **総括**

人間ドックの充実にむけ、目標を定め健診の質を高める努力をしている。定期的な評価が行われ記録もしっかり行われている。施設の方針が職員にも浸透し、新規の業務にも意欲的に取り組んでいることを評価したい。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定（更新）に値すると判断する。

審査日 2019年4月11日

認定承認日 2019年4月20日